

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度
		携帯型情報端末を用いた意思伝達
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 ■各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	ふるさと納税返礼品とA支援ショップに向けた幼児椅子の製作
	授業の目標	・品質向上に必要な技術を身に付ける。 ・使い手の求めるものを考え、質のよい製品を作るために必要なことを考える。 ・自分の役割に自信をもって取り組み、互いに教え合って品質を向上させる。
	学力の3要素	■「知識及び技能」 ■「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 ■特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 ■高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (1~3)年 (10)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 ■知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと ■話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと ■コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・口蓋裂のため発音が不明瞭で、指差しと発声で伝えている。しかし、十分に伝えることができず途中で伝えることをあきらめたり、そのまま行動したりすることがある。 ・書字はできるが、書き間違いが多い。間違いを指摘されることを嫌がる。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(■A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) コミュニケーションの一つの方法としてVOCAを活用することで、自分の意思が身近な人に伝わるという実感を持ち、更なる活動意欲の向上につなげる。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	 (iPod Touch)  (iPod Touch の操作画面)
授業展開	授業展開・支援の手立て	あらかじめ、必要と思われる語句をiPod Touchへ録音し、教師へ報告する際に使用した。機器に興味が高かったため、すぐに操作に慣れ、スムーズに使用することができた。その後は、教師だけでなく、他の生徒に相談するツールとしてDropTalkも併用しながら活用している。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・作業学習において、iPod Touchを使用して身近な人にメッセージを伝えることが定着した。機器の扱いも丁寧で、自分の思いを伝えるためのツールとしての良さを感じている。 ・機器に対する興味・関心と手軽さが本人のニーズと一致したと考えられる。 ・今後も本人の伝えようとする気持ちを高めながら活用場面を広げていくことが必要である。